

コンビ株式会社

社長:松浦 弘昌 資本金:29億9,192万円

(東証第一部: 7935)

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-6-7

TEL: 03-5828-7666 FAX: 03-5828-7665

コンビ プライマリー・オーラルケア研究会「赤ちゃん・子どものオーラルケア」調査

「仕上げ磨き」を嫌がる子どもは3歳までの半数以上、 約7割の母親がストレスを感じる

～親子の夜のふれあいゴールデンタイムの中で、「仕上げ磨き」だけがストレスタイム～
～「仕上げ磨き」の工夫第1位 虫歯の痛さや怖さを話す「説得タイプ」～

コンビ株式会社「プライマリー・オーラルケア研究会」(以下、P・O研究会)では、現在5ヶ月から8歳までの子どもを持つ母親を対象に、「赤ちゃん・子どものオーラルケア」に関する意識と実態について調査を実施・分析いたしましたので、結果をご報告いたします。

調査結果からは、子どものオーラルケアに関して母親の意識が高く、なかでも特に重要視している「仕上げ磨き」では、**子どもが嫌がることなどを理由に多くの母親がストレスを抱えているという問題が顕在化しました。**また、仕上げ磨き時の工夫では、虫歯の痛さや怖さを話す「説得タイプ」に続き、特に工夫していない「見守りタイプ」、口をあけた一瞬を狙う「スナイパータイプ」、体を押さえつける「レスラータイプ」が上位に並びました。

さらに、親子がリラックスして心を通わせることのできる時間について質問したところ、「夜ご飯」「お風呂」「就寝前の読み聞かせ」など**夜の時間に集中する一方、夜の「仕上げ磨き」については「子どもの虫歯予防の義務の時間」と捉える傾向があり、親子のふれあい“ゴールデンタイム”の中でも“谷間の時間”になっている実態も浮かび上がりました。**

P・O研究会としては、オーラルケアをはじめとした子どもの口腔発育の重要性について、適切な支援・情報発信を進めていくとともに、今後は子どものオーラルケアを親子コミュニケーションの視点から、両親が前向きに取り組めるようなサポートを検討していきます。

【調査結果のまとめ】

- **子供のオーラルケアで行っていること、「仕上げ磨き」が第1位に**……………P.2
ー 歯の健康を守るために重要なオーラルケアについても「仕上げ磨き」が第1位に。
- **父親の約半数が仕上げ磨きに関与。その母親(妻)の約8割が満足している。**……………P.2
ー 週末に仕上げ磨きをする父親は30.7%。
- **仕上げ磨きを嫌がる子どもは3歳までの半数以上、その母親の約7割がストレスを感じている。**……………P.3
ー 仕上げ磨きを「嫌がる」割合は1歳以下では8割前後。
ー 5ヶ月から3歳までは、「嫌がる」が「応じる」を上回り、4歳から8歳では「応じる」へ逆転する傾向に。
- **仕上げ磨きの工夫ランキング第1位は「説得タイプ」、2位は「見守りタイプ」**……………P.3
ー 第3位、第4位には「スナイパータイプ」「レスラータイプ」が続く。
- **仕上げ磨きにかかる合計時間の平均は4.08分。「夕食後・寝る前のみ」の1日1回が半数**……………P.4
ー 実際に磨いている平均時間は2.46分。「週末磨きタイプ(夫とふたりがかりで行う)」の合計時間の平均は2.5分。
- **夜の仕上げ磨き時間、「虫歯予防のための義務の時間」が第1位になるものの、
子どもの仕上げ磨きへの反応によって、母親の捉え方に違いが現れる結果に。**……………P.5
ー 子どもが仕上げ磨きに応じる母親は、「お口の成長を発見する時間」、「お子さまとのコミュニケーションの時間」の回答が高く、子どもとのコミュニケーションの時間として認識している傾向。
- **子どもとリラックスして向き合える夜の時間は、親子のふれあい“ゴールデンタイム”。**……………P.5
ー 「お風呂」(48.7%)、「読み聞かせ」(31.3%)、「夜ご飯」(29.5%)と、夜の時間に集中するものの、「夜の仕上げ磨き」(9.1%)のみが希薄な傾向に。

【調査概要】

□調査期間:2010年9月27日～9月28日

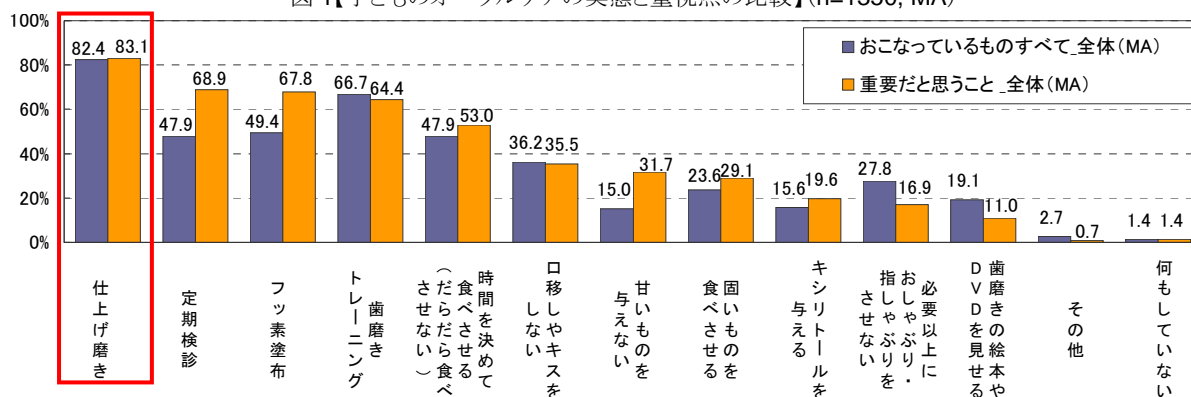
□対象:全国5ヶ月～8歳までの子どもを持つ母親 1350人

□方法:インターネットによるアンケート回答方式

○「仕上げ磨き」が“子どものオーラルケアで行っていること”、“歯の健康を守るために重要なオーラルケア”ともに第1位。

子どもへのオーラルケアについて実施していることを尋ねたところ、第1位「仕上げ磨き」(82.4%)、第2位「歯磨きトレーニング」(66.7%)と高く、次いで第3位「フッ素塗布」(49.4%)、第4位「定期検診」「時間を決めて食べさせる(ただら食べさせない)」(ともに47.9%)と続くことがわかり分りました。また、子どもの歯の健康を守るために、どのようなオーラルケアが重要かについても尋ねたところ、「仕上げ磨き」(83.1%)が第1位にランクイン。次いで、「定期健診」(68.9%)、「フッ素塗布」(67.8%)が続いています。母親の間では「仕上げ磨き」が数あるオーラルケアの中で最も重要で関心が高いことが分かりました。また、「定期健診」「フッ素塗布」は重要と意識しつつも、行うことができていない実態もうかがえます(図1)。

図1【子どものオーラルケアの実態と重視点の比較】(n=1350, MA)



■子どもの仕上げ磨きへの父親の関与について

○父親の約半数が仕上げ磨きに関与。その母親(妻)の約8割が満足している。

父親が仕上げ磨きにどの程度関与しているか尋ねたところ、約半数の父親が仕上げ磨きに関与していることが分かりました。また、週末に仕上げ磨きをする父親が30.7%いるなど、平日仕事で時間が取れない父親が週末に積極的に育児参加するといった世相を反映していることがうかがえます(図2)。また、仕上げ磨きをする父親に対しての母親(妻)の満足度についても尋ねたところ、その母親(妻)の約8割が満足していると回答するなど、積極的な父親の育児参加に母親(妻)は比較的満足していると見ることができます(図3)。

図2【配偶者の仕上げ磨き関与状況】(n=1350, SA)

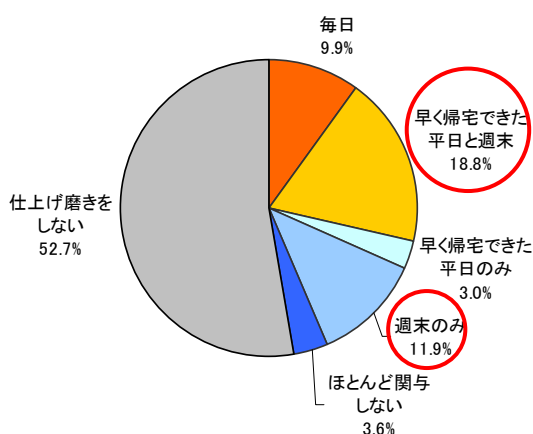
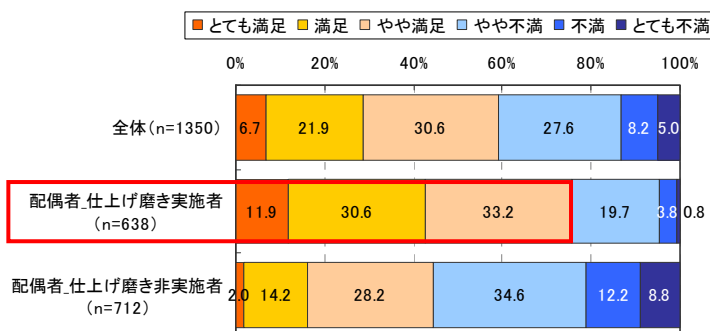


図3【配偶者の仕上げ磨き態度への妻の満足度】(n=1350, SA)



■子どもの仕上げ磨きに関する実態

○子どもの年齢が低いほど仕上げ磨きを嫌がり、その母親の約7割がストレスを感じている。

仕上げ磨きをしている母親全員に、子どもの仕上げ磨きの反応について尋ねたところ、5ヶ月から3歳までは、「嫌がる」が「応じる」を上回り、4歳から8歳では「応じる」へ逆転。最も仕上げ磨きを嫌がる年齢は1歳で85.0%、次いで生後5ヶ月～12ヶ月未満の75.0%、2歳の63.5%が嫌がるということが分かりました。4歳から8歳の子どものみると、約5割は、仕上げ磨きに「すすんで応じる」ということが分かり、**子どもの成長発達に応じて仕上げ磨きに応じる**ようになることがよく分かる結果が出ました(図5)。

また、仕上げ磨きにストレスを感じるかについても尋ねたところ、子どもが仕上げ磨きを「嫌がる」と答えた人のうち68.8%の人がストレスを感じていることがわかりました(図6)。

図5【子どもの年齢別仕上げ磨きの反応】(n=1250, SA)

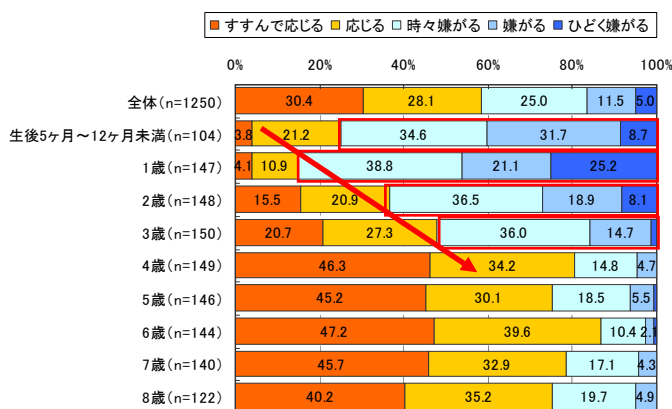
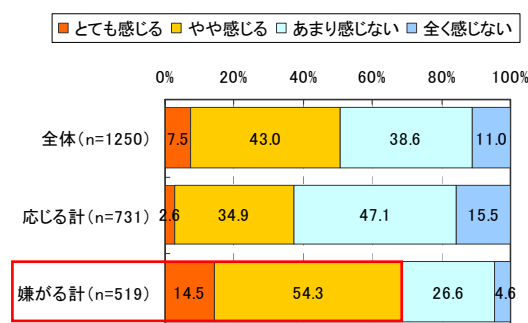


図6【子どもの仕上げ磨きの反応別、母親のストレスの度合い】(n=1250, SA)



○「仕上げ磨き」工夫ランキング第1位は「説得タイプ」、2位は「見守りタイプ」。

仕上げ磨きをしている母親全員に、スムーズな仕上げ磨きのために、どのような工夫をしているかについて尋ねたところ、仕上げ磨き時の工夫第1位は「虫歯の痛さや怖さを話す(説得タイプ)」が35.4%で突出して高く、第2位には「特に工夫していない(見守りタイプ)」(24.7%)、第3位には「口をあけた一瞬を狙う(スナイパータイプ)」(7.5%)、そして第4位には「体を押しさえつける(レスラータイプ)」(7.0%)が続いています(表1)。年齢別でみると、生後5ヶ月から2歳までは「レスラータイプ」「スナイパータイプ」が上位にくる一方で、3歳以降では「説得タイプ」が上位にランクインするなど、**子どもが成長するにつれて親の「仕上げ磨き」の工夫の仕方が変わっていく実態**が分かりました(表2)。

表1【「仕上げ磨き」工夫ランキング】(n=1250, SA)

順位	%	工夫タイプ	タイプ内容
1	35.4	説得タイプ	虫歯の痛さや怖さを話す
2	24.7	見守りタイプ	特に工夫していない
3	7.5	スナイパータイプ	口をあけた一瞬を狙う
4	7.0	レスラータイプ	体を押しさえつける
5	5.4	あきらめタイプ	嫌がるときは磨かない
6	5.0	エンタメタイプ	DVD、携帯電話、鏡、歌などのことに気をそらせながら
7	4.2	テクニシャンタイプ	お子さまが痛いと感じない磨き方を学ぶ・タブレット、歯みがきジェルを与える
8	3.0	黒子タイプ	夫、人形など、母親以外に歯みがきをさせる
9	1.5	ご褒美タイプ	歯磨きジェル・タブレット以外のご褒美でおとなしくさせる
9	1.5	歯科依存タイプ	定期健診にまかせている
11	0.2	週末磨きタイプ	夫と二人がかりで週末に

表2【子どもの年齢別「仕上げ磨き」の工夫】(n=1250, SA)

	説得タイプ	見守りタイプ	スナイパータイプ	レスラータイプ	あきらめタイプ	エンタメタイプ	テクニシャンタイプ	黒子タイプ	ご褒美タイプ	歯科依存タイプ	週末磨きタイプ	その他
(単位: %)												
全体	35.4	24.7	7.5	7.0	5.4	5.0	4.2	3.0	1.5	1.5	0.2	4.6
生後5ヶ月～12ヶ月未満	1.0	26.0	29.8	8.7	14.4	13.5	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	3.8
1歳	4.1	13.6	18.4	19.0	9.5	11.6	8.8	6.1	1.4	0.0	0.0	7.5
2歳	22.3	12.2	10.1	18.9	4.1	10.1	5.4	9.5	2.0	0.0	0.0	5.4
3歳	43.3	17.3	6.7	7.3	3.3	4.7	6.0	2.0	2.7	0.0	0.0	6.7
4歳	56.4	22.8	0.7	2.0	3.4	1.3	5.4	1.3	2.7	0.0	0.0	4.0
5歳	50.7	24.0	4.8	0.7	2.1	1.4	3.4	1.4	1.4	3.4	0.7	6.2
6歳	47.2	40.3	0.0	1.4	2.8	1.4	0.7	0.0	1.4	2.1	0.0	2.8
7歳	42.9	35.7	1.4	2.1	4.3	1.4	2.9	1.4	0.7	3.6	0.7	2.9
8歳	41.8	33.6	0.8	1.6	8.2	1.6	3.3	1.6	0.8	4.9	0.0	1.6

※工夫タイプの「その他」については除く

○仕上げ磨きにかかる合計時間の平均は4.08分。「週末磨きタイプ(夫とふたりがかりで行う)」では平均2.5分。

仕上げ磨きをしている母親全員に、1回あたりの仕上げ磨きにかかる(子どもが嫌がるのを押さえつける時間などの磨いていない時間も含む)合計の時間と、そのうち実際に歯を磨いている時間を尋ねたところ、仕上げ磨きにかかる合計時間の平均は4.08分、そのうち実際に磨いている平均時間は2.46分であることが分かりました。また、仕上げ磨きの工夫別に見てみると、「週末磨きタイプ」では合計平均時間が2.5分と1番短い一方で、その他のタイプではおしなべて仕上げ磨きには4分程度かかっていることが分かりました(表3)。

表3【「仕上げ磨き」工夫別、仕上げ磨きにかかる合計時間と実際に磨いている時間】(n=1250, RN)

工夫タイプ	合計時間(分)	実際に磨いている時間(分)
全体平均	4.08	2.46
説得タイプ	4.17	2.58
見守りタイプ	3.77	2.46
スナイパータイプ	3.83	1.80
レスラータイプ	4.25	2.45
あきらめタイプ	4.32	2.38
エンタメタイプ	4.13	2.40
テクニシャンタイプ	4.25	2.69
黒子タイプ	4.81	2.65
ご褒美タイプ	4.00	2.42
歯科依存タイプ	4.79	3.11
週末磨きタイプ	2.50	2.50
その他	4.02	2.16

○仕上げ磨きは「夕食後・寝る前のみ」の1日1回が半数

1日の仕上げ磨きの実施頻度について尋ねたところ、「夕食後・寝る前のみ」(49.3%)が圧倒的に高く、次いで「朝食後と夕食後の2回」(24.7%)であることが分かりました(図7)。また、回数にまとめると、「1回」(50.6%)が半数を占め、次いで「2回」(27.0%)が上位にランクインしています(図8)。

図7【1日の仕上げ磨きの実施回数】(n=1350, SA)

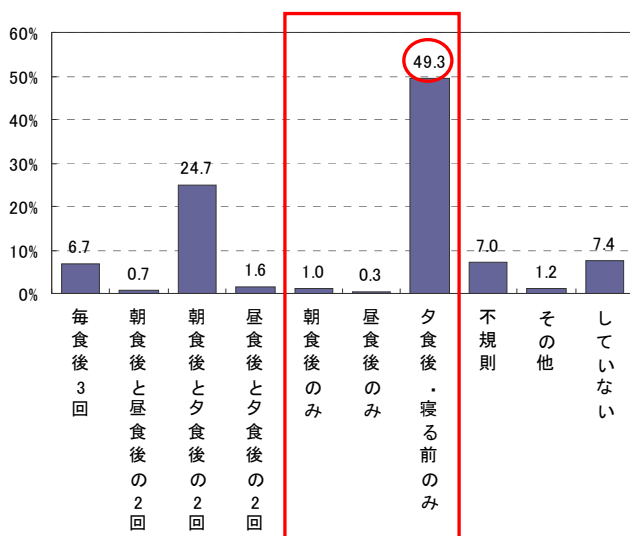
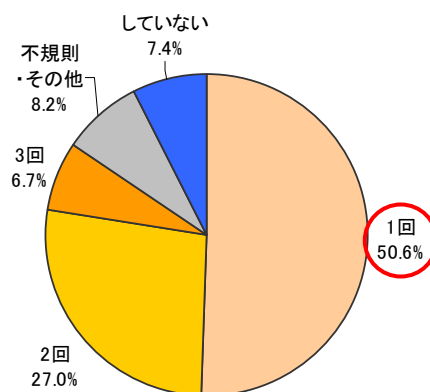


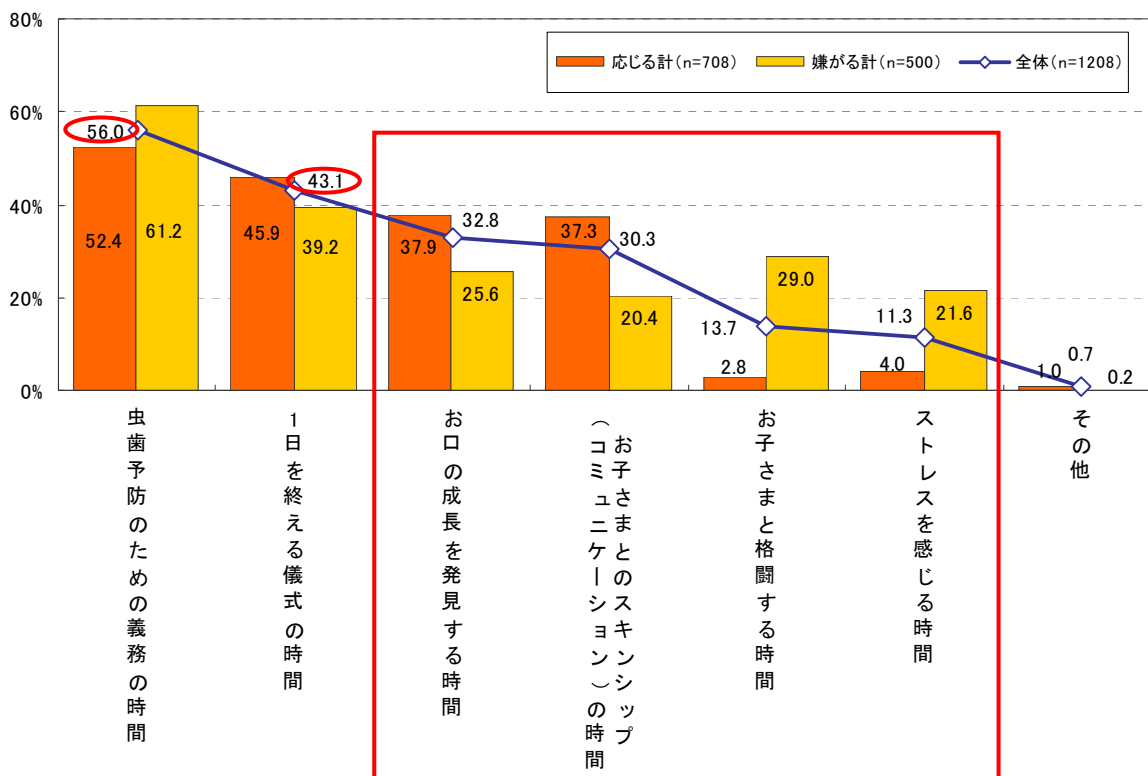
図8【1日の仕上げ磨きの実施頻度】(n=1350, SA)



○夜の仕上げ磨き時間、「虫歯予防のための義務の時間」が第1位になるものの、
子どもの仕上げ磨きへの反応によって、母親の捉え方に違いが現れる結果に。

夜の時間に仕上げ磨きをしている母親全員に、「夜の仕上げ磨きの時間」はどのような時間であるかについて尋ねたところ、「虫歯予防のための義務の時間」(56.0%)が1位、「1 日を終える儀式の時間」(43.1%)が 2 位と、“やらなければならない”という意識が垣間見える結果となりました。また、子どもが仕上げ磨きに「応じる」と「嫌がる」のそれぞれの母親でみていくと、子どもが仕上げ磨きに「応じる」母親では、「お口の成長を発見する時間」(37.9%)、「お子さまとのスキンシップ(コミュニケーション)の時間」(37.3%)と続くのに対し、子どもが仕上げ磨きに嫌がる母親では、「お子さまと格闘する時間」(29.0%)、「ストレスを感じる時間」(21.6%)と続き、子どもが仕上げ磨きに「応じる」と「嫌がる」によって母親の捉え方に差があることがわかりました。仕上げ磨きに「応じる」子どもを持つ母親ほど、夜の仕上げ磨きを「子どもの成長の発見」「コミュニケーション」の時間と捉えているようです(図 9)。

図 9【子どもの仕上げ磨きへの反応と、母親にとっての夜の仕上げ磨きの時間について】(n=1208, SA)

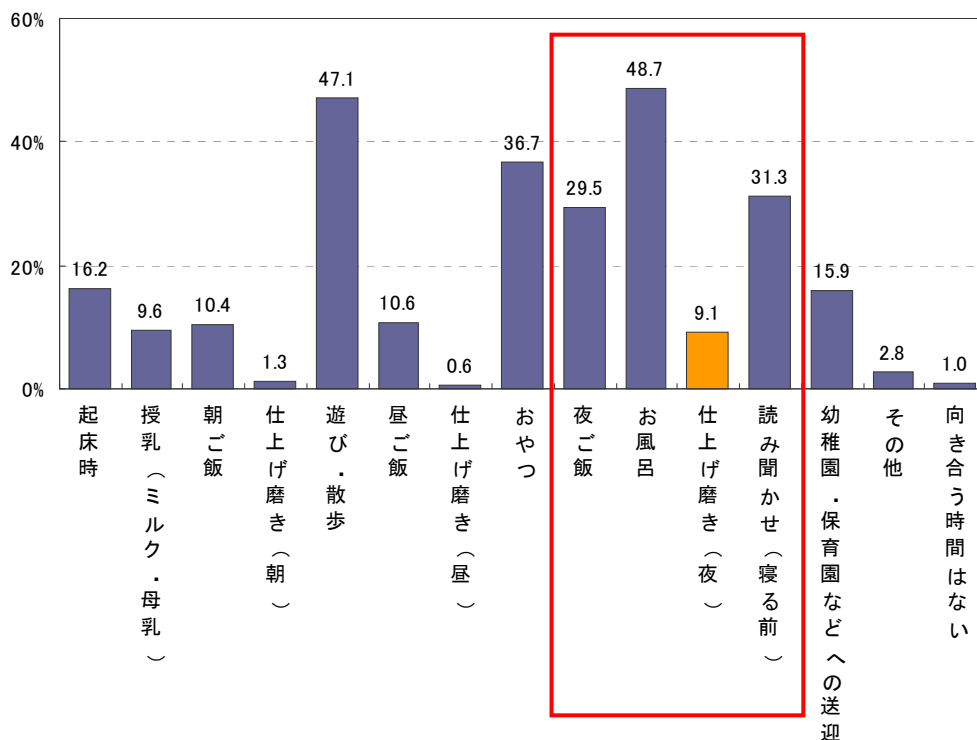


■家族・親子の時間

○子どもとリラックスして向き合える夜の時間は、親子のふれあい“ゴールデンタイム”。

子どもとリラックスして向き合える時間帯について尋ねたところ、「お風呂」(48.7%)、「読み聞かせ(寝る前)」(31.3%)、「夜ご飯」(29.5%)と夜の時間に集中しているものの、「仕上げ磨き(夜)」は1割弱と低く、夜のふれあい“ゴールデンタイム”の中でも、“谷間の時間”となっていることが分かりました(図10)。

図10【子どもとリラックスして向き合える時間】(n=1350, MA)



また、最も悩み、改善したいと思う子どもとの時間についても尋ねたところ、全体の具体的な悩みの中では1位「授乳・ご飯」(18.8%)、2位「オムツ替え・トイレトレーニング」(10.2%)、3位「仕上げ磨き」(10.1%)ということが分かり、これらは母親の“3大悩み”になっていることがうかがえます。特に「仕上げ磨き」に着目すると、生後5ヶ月から12ヶ月未満では13.3%で第3位、1歳では24.0%で第2位、2歳では17.3%で第3位にランクインし、高い割合を示しています。一方、4歳では「授乳・ご飯」、5歳では「遊び・散歩」が高い割合で第1位にランクインしています。さらに、6歳以降では「特になし」の回答割合が平均より10ポイント以上高くなることが分かり、**子どもの成長に合わせて、母親の悩みも変化する、6歳以降ではその悩みも少なくなっていくことがうかがえます**(表4)。

表4【母親が最も悩み改善したいと思う子どもとの時間【子どもの年齢別】】(n=1350, SA)

	全体	授乳・ご飯	オムツ替え・トイレトレーニング	仕上げ磨き	遊び・散歩	読み聞かせ	おやつ	お風呂	幼稚園・保育園などへの送迎	その他	特になし
全体	1350	18.8	10.2	10.1	9.8	5.2	3.9	3.5	2.1	4.7	31.8
H1:対象者区分											
生後5ヶ月～12ヶ月未満	150	22.7	14.7	13.3	10.0	5.3	0.0	4.0	0.7	2.7	26.7
1歳	150	26.0	14.7	24.0	4.7	5.3	0.7	0.0	0.7	2.0	22.0
2歳	150	18.0	35.3	17.3	5.3	2.7	2.7	3.3	0.7	3.3	11.3
3歳	150	22.0	14.7	9.3	6.0	4.0	6.7	6.0	2.0	8.7	20.7
4歳	150	27.3	6.0	6.7	10.7	4.7	6.7	2.7	6.7	3.3	25.3
5歳	150	18.0	2.0	2.0	18.0	6.0	5.3	4.0	4.0	6.0	34.7
6歳	150	14.0	2.7	4.0	14.0	8.0	4.0	2.7	1.3	6.0	43.3
7歳	150	12.7	1.3	7.3	10.0	6.7	4.0	3.3	0.7	5.3	48.7
8歳	150	8.7	0.7	6.7	9.3	4.0	5.3	5.3	2.0	4.7	53.3

今回の調査から

子どもの「仕上げ磨き」は、親子の豊かなふれあいの時間

東京歯科大学 小児歯科学講座 講師／歯学博士 米津卓郎先生



今回の調査では、多くのお母さんが「仕上げ磨き」がお子様のオーラルケアにとって重要であると認識していることが明らかになった一方、お子様が「仕上げ磨き」を嫌がることに、ストレスを抱えている現状が明らかになりました。

また、お子様が仕上げ磨きを嫌がるか、応じるかによって、お母さんの夜の仕上げ磨きの時間への認識が「子どもと格闘する時間」になるか、「子どもの口の成長を発見」や「子どもとのスキンシップ（コミュニケーション）の時間」に分かれるという結果から、「仕上げ磨き」の時間を上手に活用できれば、親子コミュニケーションの豊かな時間になりえるといえます。

お子様が 5 ヶ月から 2 歳の間は仕上げ磨きを嫌がる傾向にあり、お母さん達はあの手この手をつくして苦労します。しかし、3 歳をすぎるとたいていの場合には仕上げ磨きに応じてくれるようになりますので、長い目で仕上げ磨きに取り組んでほしいと思います。仕上げ磨きをお子様が嫌がる大変な時期にお父さんの関与があると、お母さんのストレスはずいぶん軽減されます。お子様と過ごす時間が少ないお父さんには、お子様のお口の成長を発見したり、スキンシップの機会になったりと、相乗効果がたくさん生まれます。お子様の仕上げ磨きへの反応や成長発達に応じてアプローチ方法を工夫しながら、仕上げ磨きの時間を親子のコミュニケーションの時間として活用してほしいと思います。お子様自身が磨き残しなく歯みがきができるようになる、8 歳くらいまではお母さんやお父さんが仕上げ磨きをしてあげる必要があります。

仕上げ磨きの回数は「夕食後・寝る前のみ」の 1 日 1 回が半数という結果がでましたが、大切なのは回数よりも、効率的で効果的な磨き方をすることです。一般的に、利き手側の口腔清掃が難しいと言われているので、右利きの人はお子様の口の右側の磨き残しがないように注意することもポイントです。

お子様の個々のお口や歯の特徴をふまえたケアの指導は集団検診では難しいので、気軽に悩みや疑問を相談できる小児歯科医のかかりつけをつくり、ケアの指導を受けるとともに、定期的に診ていただくようにするとよいでしょう。

【子どもの年齢別オーラルケアの工夫と意識すべきポイント】

- | | |
|------------|---|
| 【5 ヶ月～1 歳】 | ・子どもの口をきれいな指で軽く触れるなど、仕上げ磨きに慣れさせることからスタートする。
・手早く、痛くないやり方で磨いてあげる。 |
| 【1 歳～3 歳】 | ・仕上げ磨き、自分磨きを習慣にする。
・子どもと楽しめる歯磨きの環境をつくる。 |
| 【3 歳以降】 | ・オーラルケアの大切さを理解させ、8 歳くらいまでに自分磨きができるよう、磨き方を教える。 |

米津卓郎先生 プロフィール

1952 年生まれ 徳島県出身 歯学博士
東京歯科大学小児歯科学講座で小児に対する歯科医学の研究、診療および教育に長年従事するとともに、地域で行われている低年齢児の歯科健康診査に 30 年以上携わるといった大学人としてはユニークな経歴の持ち主である。また、アメリカのアイオワ大学予防歯科学講座に留学経験もあり、共同発表したおしゃぶりに関する研究は世界的に有名である。現在も様々な共同研究を継続中であり、毎年夏休みを返上して渡米している。

■プライマリー・オーラルケア研究会とは

コンビは、『生まれた直後から3歳頃までの口まわりの発育(口腔発育)を統合的に考えることが、その後の子どもの成長のために重要』と考え、一連の発育に関わる口腔ケアを「プライマリー・オーラルケア」と位置づけています。

そして、これまで行なってきた哺乳研究(哺乳運動など)、育児研究などで得られた様々な成果を、さらに口腔発達領域全般の研究へと拡大・発展させる為に、様々な専門分野の先生方との学際的な(インターディシプリナリー(interdisciplinary))研究を推進すべく、2009年11月に「プライマリー・オーラルケア研究会」を発足させました。本研究会では、「おっぱいからはじまる口腔発育」をメインテーマとした一貫性のある研究を通じて、乳幼児期の用具開発と発達支援、情報発信に努めて参ります。

【これまでの調査のご紹介】

○「赤ちゃんのお口とおっぱい」意識・実態調査(2009年11月17日)

http://www.combi.co.jp/company/po/dl/No.1_ActualMilk_20091117.pdf

○「赤ちゃんのお口調査」(2010年3月15日)

http://www.combi.co.jp/topics/files/200944_2.pdf

○「夫の育児参加についてのアンケート」(2010年8月31日)

<http://www.combi.co.jp/topics/files/20100831.pdf>

【団体概要】

正式名称 : 『プライマリー・オーラルケア(略称:P・O)研究会』

発 足 : 2009年11月17日 (<http://www.combi.co.jp/company/po/index.html>)

研究内容 : 「おっぱいからはじまる口腔発育」をメインテーマとした、
専門諸分野の学際的な研究。

運営体制 : 本研究会は口腔発達領域を4分科会制として推進。

「小児歯科・成育歯科分科会」

「母乳育児分科会」

「摂食・嚥下^{えんげ}分科会」

「手とお口の協調運動分科会」

《コンビ株式会社》

報道各位からのリリースに関するお問い合わせ先

経営企画部 広報担当 須田/松本

TEL : 03-5828-7607 / FAX : 03-5828-7662